

安全データシート

改訂日:2022年8月8日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

アルミニウム,粉末
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
AA1234

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
健康に対する有害性

環境に対する有害性
ラベル要素

絵表示又はシンボル

燃焼性
特定標的臓器・全身毒性:区分1(肺)
(反復ばく露) 区分2(神経系)
水生環境有害性 短期(急性):区分4



注意喚起語
危険有害性情報

危険
燃焼性
長期にわたる又は反復暴露による臓器の障害(肺)
長期にわたる又は反復暴露による臓器の障害のおそれ(神経系)
長期継続的影響により水生生物に有害のおそれ

注意書き

【安全対策】
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。
静電的に敏感な物質を積み直す場合、容器を接地すること/アースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。
粉じんを吸入しないこと。
取り扱い後はよく手と口の中を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。
【応急処置】
火災の場合:消火に乾燥砂/粉末消火剤/ソーダ灰/石灰を使用すること。
気分が悪い時は医師の診断/手当てを受けること。
【保管】
乾燥した場所又は密閉された容器中で保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
空気中で粒子が細かく拡散して爆発性の混合気体を生じる。
酸、アルコール、酸化剤、水と接触すると、火災や爆発の危険性がある。

GHS分類に該当しない他の危険有害性

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

一般名

各成分の情報

化学名

別名

化学式

化学物質を特定できる一般的な番号

成分及び含有量

官報公示整理番号(化審法)

混合物

アルミニウム粉末

アルミニウム

タルク

—

含水珪酸マグネシウム

Al

3MgO·4SiO₂·H₂O

CAS RN:

7429-90-5

14807-96-6

70~75%

25~30%

—

該当情報なし。

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚を速やかに洗浄すること。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

水で数分間、注意深く洗うこと。

眼に入った場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

口をすすぐこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

吸入:肺障害の症状(アルミニウム粉)

皮膚:皮膚炎の症状(アルミニウム粉)

5. 火災時の措置

適切な消火剤	乾燥砂、粉末消火剤、ソーダ灰、石灰
使ってはならない消火剤	水、泡消火剤
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 消火後再び発火するおそれがある。 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火活動は、有効に行える十分な距離から行う。 容器内に水を入れてはいけない。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 大量の場合、水噴霧により冷却する。
消火を行う者の保護	消火活動は風上から行き、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	危険でなければ漏れを止める。 蒸発を抑え、蒸気の拡散を防ぐため散水を行う。 散水を漏出物に直接かけない。 乾燥した土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。 こぼれた粉末はプラスチックシートで覆い飛散するのを防ぎ、乾燥させる。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 漏洩物やその容器内に水をかけてはいけない。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体換気等)	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	激しい反応と火災の発生の危機があるため、水と接触させないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 皮膚との接触を避けること。 眼に入れないこと。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
接触回避	環境への放出を避けること。
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
技術的対策	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
安全な保管条件	激しい反応と火災の発生の危機があるため、水とのいかなる接触の可能性を排除し保管すること。 乾燥した場所又は密閉容器に保管すること。
安全な容器包装材料	ポリプロピレン
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
管理濃度	該当情報なし。
日本産衛学会	該当情報なし。
ACGIH	TLV-TWA 5ppm(高温AIとして) TLV-TWA 10ppm(粉じんとして)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	防塵マスク又は簡易防塵マスクを着用する。
手の保護具	ゴム手袋を着用する。
眼の保護具	ゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	作業着を着用する。
特別な注意事項	該当情報なし。
9. 物理的及び化学的性質	

物理状態	粉末
色	白～灰色
臭い	無臭
融点/凝固点	660°C(アルミニウム単体として)
沸点又は初留点及び沸点範囲	2327°C(アルミニウム単体として)
燃焼性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	該当情報なし。
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	不溶
n-オクタノール/水分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	2.70(アルミニウム単体として)
相対ガス密度	該当情報なし。
蒸発速度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。
危険有害反応可能性	酸化剤、強酸、塩素化炭化水素と激しく反応して火災や爆発の危険をもたらす。
	水、アルコールと反応して火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	空気、湿気、水
混触危険物質	酸化剤、塩酸、塩素化炭化水素、アルコール
危険有害な分解生成物	該当情報なし。
11. 有害性情報	
急性毒性	該当情報なし。(分類できない)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	該当情報なし。(分類できない)
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	該当情報なし。(分類できない)
呼吸器感受性又は皮膚感受性	該当情報なし。(分類できない)
生殖細胞変異原性	該当情報なし。(分類できない)
発がん性	該当情報なし。(分類できない)
生殖毒性	該当情報なし。(分類できない)
特定標的臓器毒性(単回暴露)	該当情報なし。(分類できない)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	アルミニウムのデータとして、ヒトの長期ばく露例で肺線維症が認められており、肺が標的臓器と判断され区分1と分類できる。区分1の成分を10%をこえて含有する為、本製品は区分1(肺)とした。
	アルミニウムのデータとして、神経系に影響を阿竹機能障害を生じるとの記述があり、神経系が標的臓器と判断され区分2と分類できる。区分2の成分を10%をこえて含有する為、本製品は区分2(神経系)とした。区分4の成分を25%以上含有する為、本製品は区分4とした。
誤えん有害性	該当情報なし。(分類できない)
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期: (急性) 該当情報なし。(分類できない)
	長期: (慢性) アルミニウムのデータとしては、L(E)C50≤100mg/Lデータが存在するものの、金属であり水中での挙動が不明であるため区分4と分類できる。
残留性・分解性	該当情報なし。
生体蓄積性	該当情報なし。
土壌中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意	
国連番号	1309
品名(国連輸送名)	アルミニウム粉末(表面が被覆されているもの)
国連分類	4.1(GHS分類は国連分類4.1容器等級Ⅱと考えて燃焼性)
容器等級	Ⅱ又はⅢ
国内規制がある場合の規制情報	該当法規制特定できず。
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
15. 適用法令	
化学物質管理促進法(PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示又は通知すべき危険物及び有害物(第57条・施行令18条、第57条の2・施行令18条の2)[アルミニウム粉末]
	危険性又は有害性を調査すべき物[アルミニウム粉末]
消防法	危険物に該当しない。
16. その他の情報	

引用文献

職場の安全サイト(厚生労働省HP)(アルミニウム)
国際化学物質安全性カード(ICSC)(アルミニウム)
NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)(タルク)
化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(化学工業日報社)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。